

令和元年度 学校評価アンケート結果の分析・考察

【評価規準】

選択肢を「A=よく当てはまる(4点)」「B=やや当てはまる(3点)」「C=あまり当てはまらない(2点)」「D=まったく当てはまらない(1点)」

と点数化し、その平均値が

3.5以上=◎ 十分満足 3.0～3.5未満=○ 概ね満足

2.5～3.0未満=△ やや課題あり 2.5未満=▲ 課題性大きい としています

※ 保護者には「E:よくわからない」の選択肢を今年度から設定(評価の材料として考慮するが、点数化の対象からは除く)。

1 生徒アンケートから

全項目平均で、7月、12月とも「3.4」であった。項目別では20項目中10項目で「◎=十分満足」となっており、改善の余地はあるが、良好な結果と捉える。一層の充実を目指して取組を推進しつつ、課題を明確にして改善にも取り組みたい。

特に、教師の学習指導状況関連項目(2～9)で、7項目が「◎=十分満足」となっていることは、授業改善の取組が成果につながっているものと評価できる。「ノートの使い方指導」など、課題事項の改善を図り一層の充実に努めたい。

学年別では、全項目平均が、1年「3.5」、2年「3.4」、3年「3.4」と学年間の差がほとんどない。各学年全項目で3.0以上の評価になっているのは、学校としての取り組みが充実し、生徒に満足感を与えているものと捉える。今後のさらなる充実を目指したい。

(自由記述について)

教科の指導(復習や宿題など)に関すること、ノート指導の要望、行事を増やしてほしいという意見、生徒指導に関する生徒視点での疑問、教師の言葉づかいの問題などについての記述があった。

意見、要望などを謙虚に受け止め、改善すべきことは改善に努め、また、生徒が疑問に感じていることについては、丁寧に回答、説明できるよう検証する。

2 保護者アンケート

全項目平均で、7月「3.23」から12月「3.16」と、わずかではあるが評価が下降している。全18項目中12項目が7月より12月が「↓(下降)」となっていることも含め謙虚に受け止めたい。比較的良い結果となっている生徒の評価と照らし合わせると、生徒や学校の状況、などが、保護者に正しく伝わっていないことも考えられ、情報発信について、さらに工夫改善を図りたい。今年度から、学校HPに保護者への配付文書をはじめ、多くの情報を遅滞なくアップしているが、保護者がHPから有効に情報を得ているのか把握できていないので、その点についても検証し、必要な改善に努めたい。

7月から引き続き、自由記述において、教師の言葉づかいやふるまいへの厳しい指摘がある。全職員で確認し、改善に努めようと取り組んできたところであるが、十分な改善につながっていないと考えられ、なお一層の意識啓発を図りたい。

今年度から保護者の意見を取り入れ、「よくわからない」という選択肢も設定したところ、平均6.9%、最大13.0%が「よくわからない」と回答している。設問項目と関連する学校の情報をもっと保護者に伝わるよう工夫改善を図りたい。

3 教師アンケート

全項目平均で、7月「3.37」から12月「3.41」とわずかだが改善。全20項目中11項目で「↑(改善)」、5項目が「↓(下降)」となっている。今年度重点取組事項としている道徳の指導(項目19)や共通確認事項(項目5)が高い評価(「3.7」となっている点は、組織的な対応の充実が図られた結果と捉えられる。一方で、自己管理能力の育成を目指して、昨年度から取り組んでいる「やりとり帳」の活用については、「2.9(やや課題あり)」となっており、次年度も継続するかも含め、課題を精査し、改善につなげる方策を講じたい。